

道徳科

令和6年度 授業改善のポイント

- 1 学習指導要領の目標に示されている学習活動（「道徳的諸価値について理解する」「自己を見つめる」「物事を多面的・多角的に考える」「自己の（人間としての）生き方についての考えを深める」）を通して児童生徒が主体的に道徳性を養う姿を想定した上で、授業を構想する。
- 2 道徳的価値についての理解を基に、児童生徒がこれまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもったりする活動を充実させる。

考え、議論する道徳の授業づくりの手立て

【指導事例】「裏庭での出来事」（中学校第1学年）[A（1）自主、自律、自由と責任]

内容項目の理解

「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」

児童生徒の実態把握

日常生活の中で、自分の行動に責任をもたない姿が見受けられる。誠実な生き方について考え、気付かせることが必要である。

教材の効果的な活用

自分の過失を打ち明けられなかった健の気持ちに共感させるとともに、先生に報告する決心をした姿から、誠実な生き方について考えさせる。

指導の明確な意図

【ねらい】 自己の責任において結果を受け止め、何が正しく、何が誤りであるかを判断して誠実に生きようとする心情を育てる。



健は初め、ガラスを割ったことを先生に打ち明けませんでした。皆さんが健の立場ならどうしますか。ポジショニングで考えを示してください。

↓ ポジショニングを基に、様々な考えを述べ合う



皆さんが様々な考えをもっていることが分かりましたね。黙っていれば怒られずに済む、という意見がありました。健は打ち明ける決心をしました。どのような気持ちから決心したのでしょうか。自分の考えをキーワードでデジタル付箋に入力してください。

↑ いろいろなキーワードが提出されましたね。まず「真実」「後悔」と提出している人の考えを聞いてみましょう。

真実を打ち明けなければいけないという気持ちからだと思います。

自分のしてしまったことを正直に言わなかったことについて、とても後悔していたのだと思います。

ICT 学習支援ソフトウェアのポジショニング機能や、提出、共有機能等を活用することで個の考えを生かし、話し合いをコーディネートします。その上で、児童生徒の発言に対する考えをほかの児童生徒につなぐなどしながら、児童生徒同士の話し合いを促していきます。

ポイント1

個の考えを明確にして話し合うことで、自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりすることができます。

話し合い後の板書

打ち明ける

- ・打ち明けたいが怒られたくない気持ちもある
- ・後悔すること
- ・たとえ怒られても誠実に生きたい

誠実とはどのようなものだろうか

- ・自分の良心にうそをつかない
- ・善と悪をしっかりと区別する
- ・自分の行動に責任をもつ
- ・損得ではなく正しいかどうかを基準に行動する

★どんな生き方につながる？

- ・後悔しない生き方
- ・自分の良心を信じていることができる
- ・生き方に誇りをもてる

道徳的価値の理解の深まり

導入で提示した事前アンケート結果

Q2 誠実とはどのようなものだと思いますか

- ・人にうそをつかないこと
- ・人に優しくすること
- ・ごまかさないこと
- ・正直なこと

再提示する

ICT 授業の導入で提示した事前アンケート結果を展開後段で再提示するなどして、授業前後の考えを比較させることで、道徳的価値の理解の深まりを実感できるようにします。

ポイント1、2 重要

道徳的価値の理解を基に、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習活動を必ず設定することで、よりよく生きていこうとする道徳的実践につながっていくようにします。



みんなで話し合ったことで、授業前よりも「誠実」についての考えが深まりましたね。それでは、自分のこれまでの生き方、そしてこれからの生き方について、「誠実」という視点で考えてみましょう。

僕は自分に都合の悪いことを隠した経験があり、自分を守るために自分にうそをついたことに気がきました。今日話し合っ、誠実に生きることの大切さを感じました。正しいことを選択する心を持ちたいです。